

クマコオロギ

Mitius minor (Shiraki)

バッタ目コオロギ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー なし

選定理由

水田のほ場整備に伴い激減した可能性が高く、現在、県内では1箇所では確認されていない。生息状況が不明である。

形態

体長が約13mmの小型のコオロギである。体色が一様に暗褐色、脚は赤褐色であることが特徴である。翅は短翅で飛ぶことはできない。

国内分布

本州、四国、九州、対馬、種子島に分布する。日本海側では新潟県が北限である。

県内分布

2005年に、輪島市（旧門前町）で記録があり、手取川下流部においても採集されている。

生態

卵で越冬。年1回発生で、成虫は8月から10月に出現する。湿った草地に浅く穴を掘ってすみ、オスはリッ、リッと短く切って鳴く。

生息地の条件

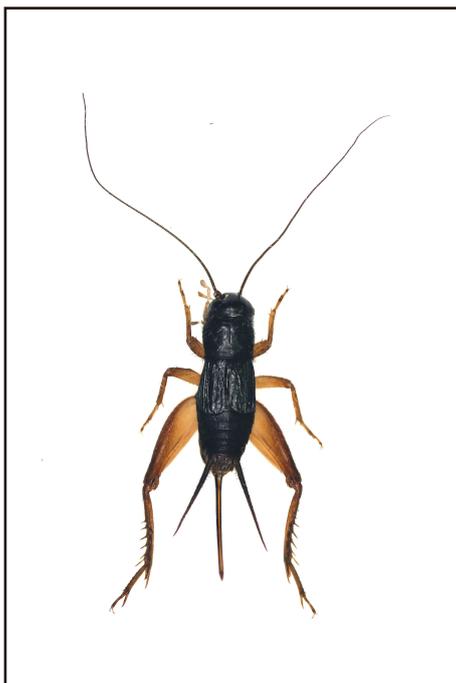
本種は平野部から丘陵地にかけて分布し、一年中、乾燥することのない湿った草地を生息環境としている。輪島市の生息地も山際にある湿った休耕田で、イネ科を主体とした丈の短い草本類が密生している。

生存の危機

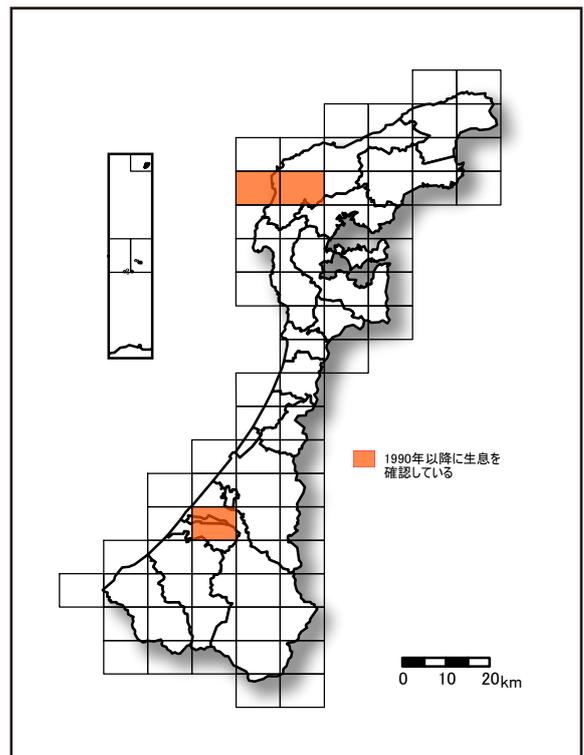
平野部の湿田周辺において、かつては広く分布していたものと思われるが、ほ場整備による乾田化で生息地が激減したと思われる。また、廃田も乾燥化が進みつつある。谷津田の廃田や湿った河川敷、潟周辺の湿性草地に生息している可能性が高く、今後の調査が必要である。

参考文献

市川顕彦ほか 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 687pp. 日本直翅学会編. 北海道大学出版会. 札幌.



標本提供者: 富沢章



県内の分布